

DEBUT 首長

東京都世田谷区長 保坂 展人氏

災害「想定外」も想定、 情報公開進める

東京都世田谷区 東京23区の西南端に位置する住宅・商業都市。人口は2010年国勢調査で87万8056人（速報値）と23区トップ。高級住宅街の成城学園のほか三軒茶屋、下北沢など商店街が全国に知られる。

——東京23区内最大の人口の街のかじ取りを担うが。

88万区民、職員5000人という大都市の運営をまかされた。まずは庁内の風通しを良くしたい。区議会各会派の議員と意見交換したが、災害対策などは誰もがやらなければいけないと考えている。党派を超えて取り組みやすいものから順に進めたい。その際に大事なのは一部の人が情報を独占するのではなく、共有を心がけることだ。

——脱原子力発電を訴えているがどう取り組むのか。

東日本大地震の「3・11」以降、日本は変わったという視点で災害対策を総点検している。災害想定では広く「想定外」のことも考える必要がある。その一つが原子力災害で、世田谷区が被害を受けることはあり

得ないとされてきたが、東京電力・福島第1原子力発電所事故では放射性物質飛散の問題も出てきた。

このため現在、見直しを進めている地域防災計画に原子力災害もあり得るとの考え方を反映させたい。放射線測定のためのモニタリングポストも設置できるように工夫したい。

中部電力の浜岡原発が稼働を停止した。原発全部の点検が必要と思うが、最初の一步としてよしとしたい。自然再生エネルギー社会への転換をどう図るかが課題だ。福島県南相馬市長に会った際、市長は街を原発克服の拠点にしたいと話しておられた。除染技術も含め新たなエネルギー拠点づくりを目指す点で世田谷区の考えと共通しており、連携してやっていきたい。

区としては蓄電など新技術開発の支援やシンポジウムの開催、区内で各種実験ができるようにする仕組みも考えたい。節電対策としてはクールビズを5月16日から前倒しで開始し、期間も10月末まで1カ月延ばした。輪番制による定時退庁の



ほさか・のぶと 1955年仙台市生まれ。東京都立新宿高校中退。96年衆議院議員に初当選。2000年、05年選挙も含め3期務める。社会民主党副幹事長、総務省顧問などを歴任。4月の世田谷区長選に初当選。趣味は読書とブログ更新。55歳。

ほか、区の施設や住宅に電力削減状況が数字でわかるスマートメーター導入をすすめたい。

——外環道凍結など大型再開発の見直しはどう進める。

大型開発事業については選挙戦でまず情報公開をするべきだと主張してきた。外環道については総工費の積算根拠、財政状況との勘案、住民説明などの課題もある。これまでの経過は前区長から引き継いでおり、区民参加で検証ができるか検討作業を始めた段階だ。

——都区制度改革など地方分権への見解は。

88万人の住民を抱える世田谷区が自治権を拡充しなければならないのは当然の流れだ。都からの事業移管を進めると同時に区内分権も考えたい。現在、5支所があるが今後、これを増やしつつ、独自判断で行政を進められるようにしたい。災害に遭ったときに中央にお伺いをたてるようでは対応できない。

（主任研究員 川井 幸司郎）